

『一生懸命』幻の新座市議会報告第55弾!



たかむらともや

2010年 4月 30日発行

③ 10万アクセス

ホームページを開設して6年。いつの間にかアクセスが10万回を超えました。議員日記は毎日更新してきましたが、それ以外はボチボチ更新という6年間でした。有名人のブログでは一日で万単位のアクセスがある訳で・・・大したことではないかも知れませんが、自分の中ではちょっと胸を張れそうです。これも、中学校(五中・六中・二中)時代に毎日学級通信を書いていたことが基本になっていると思います。当時子ども達や応援してくれた保護者の方達に感謝しているところです。

③ 集団登校

次男が小学1年生になったのをきっかけに、集団登校に参加するようになりました。4月は駅立ちした2日間以外は、全て一緒に登校してみました。一緒に登校してみて分かったことは、地域の方たちの「目」が大事だということです。毎朝の登校時にも、そして帰りの下校時にも子ども達を見守る暖かい目が沢山ありました。「おはよう!」「行ってらっしゃい!」「気をつけてね!」「お帰りなさい!」「子どもたちに声をかけてくださる方たちが沢山います。こういう地域の目が多ければ、多いほど、何かあった時に逃げ込める場所が多くなるということです。登下校の間に、親戚のおじさん、おばさんの家が沢山あったら安心なのと同じです。一方で、危険な道路なのに人がいなかったり、横断歩道がなかったりする場所があることも分かりました。何でも経験してみないとわからないものです。最初は寡黙だった子ども達が「ねえ、お父さん!」「空君のおとうさん!」と色々話をしてくれるようになりました。この間などは、みんなで校歌を歌いながら登校しました。我々の時代にはなかった集団登校。プラス面もマイナス面もありますが、これからも子ども達と一緒に歩いていくことで、考えていきたいと思っています。



たかやんのプロフィール

本名たかむらともや。東京都新宿区生まれ。新宿区立西戸山中学、都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、突然教師になる決意をする。77年から教師として五中・六中・二中で21年間を過ごし98年退職。04年初当選。どの会派にも属せず一人会派「語る会」で、しがらみのない発言をし続けている。新堀・石神「たかやん塾」塾長。黒目川川づくり懇談会代表。石神3丁目在住。趣味はテニス・サッカー・料理・片付け・読書・カメラ・川掃除。新座五中・六中の男女硬式テニス部を率いて、県大会は50回以上、関東大会5回、全国大会2回優勝。同時に学級通信「一生懸命」を20年間発行し続ける。議員日記は6年と2ヶ月毎日更新。アクセスは10万回を超える。小中高生の生の声を聞きながら、日々教育を考え「観光新座ではなく、教育新座」を訴えている。ご感想・ご意見・ご提案をお待ちしています。たかやん

たかやんの連絡先

自宅 042-456-8869

携帯 090-6497-5737

mail: takayanchan@jcom.home.ne.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

ホームページ、6年2ヶ月間毎日更新中!

たかやんの応援団 で 検索 してください

春祭り



毎月、黒目川の川掃除に燃えている「黒目川川づくり懇談会」ですが、この4月に初めて「すくそ新座春祭り」に参加しました。僕たちのテントは若い人達を中心に作られ「黒目川の魚たち」「ざりがに釣り」「投網教室」などで、300名以上の方たちに楽しんでいただき、大成功でした。上の写真は最初から最後まで頑張った若者達です。そして下の写真はザリガニに夢中になる子ども達。やっぱり子どもたちは生き物が好きなんですね。子ども達は水槽の魚たちにも熱い視線を送っていました。



読み聞かせ

次男の小学校では今月の23日から「朝の読み聞かせ」が始まりました。僕もお手伝いすることになりましたが、「ねぎぼうずのあさたろう」以外は殆ど読んだことがなく、絵本にはからきし自信がありません。でも、学校に出来るだけの協力をしたいと手を上げました。僕の初日は5月21日。今学期は4回読む予定です。それまでに猛練習して、子どもたちに「また読んでね!」と言われるようになりたいです。子どもたち全員の名前も早く覚えないと……

第4次基本構想総合振興計画

これからの10年を考えるのが「基本構想」です。昭和48年度～59年度までは「自然と人間の調和した住宅都市」、昭和60年度から平成12年度までは「自然と人間の調和した健康都市」、平成13年度から平成22年度までは「元気の出る人と自然が共生する快適環境都市」、そしてこの第4次基本構想では「連帯と協働で築く雑木林とせせらぎのある快適環境都市にいざ」がこれからの都市像であると、今回の審議会案ではなっています。今までの10年を考えてみれば、言葉だけで魂がこもっているとは思えません。「元気の出ない」ことばかりの10年間だったような気がする人も多いでしょう。あくまでも構想だから、どうでもいいや。と考える方もいるでしょう。しかし、この基本構想を盾にして不必要な開発が行われ、市民の血税がそれに注ぎ込まれるとしたら、黙っている訳にはいきません。この審議会案の中には地下鉄12号線を引き込むための市街化調整区域の開発が明示されています。「財政難」を理由に市民に痛み(負担増)を負わせてきた須田市政がここにきて新たな開発を目指しているのです。県の指導で土地開発公社の健全化計画が行われ、確かに市の借金はいく減りました。しかし、新座駅北口の区画整理(128億)や保谷・朝霞線(100億)そしてふるさと新座館(十数億)が同時進行していきそうな状態の中での市中央部、市街化区域の開発は無理に決まっています。市の経常収支比率は90%を超えています。そして税収は落ち込んでいるのです。それなのに、あれもこれもやろうとする須田市政。その全てに賛成する市長与党(政和会・刷新の会・公明党)の19人。このままでは新座市が潰れてしまう。そんな心配をするのは僕だけではないでしょう。市長与党は議会の前に「議案説明会」に参加し、市長提出議案には議会では反対できない。そういう仕組みがあります。市長与党だからこそブレーキをかけられるのに、それもできないのが今の新座市です。市議選までは2年を切りました。そして、市長選も2年後に迫ってきました。その選択権は市民のみなさんにあります。